［別紙①］

第６学年１組　社会科学習指導案

2023 年１月 25 日（水）５校時
指導者

１．単元名『平和な世界を実現するための意見文を書こう！』
　学習材　東京書籍　新しい社会６（政治・国際編）「３　世界の中の日本」

２．単元の目標
○世界中の社会的課題にふれ、日本人が課題解決のために国際連合や青年海外協力隊、NGO などの活動を通して積極的に世界の平和維持や発展に貢献していることを理解することができる。　＜知識及び技能＞
○地球規模で発生している課題の解決に向けた連携や協力について我が国が果たしている役割について、資料で調べ必要な情報を集め読み取り、調べたことを図表や文などに考えてまとめることができる。＜思考力、判断力、表現力等＞
○国際社会の平和と発展のために果たさなければならない責任と義務があることを自覚し、グローバル化する国際社会における我が国の役割について考えようとしている。　＜学びに向かう力、人間性等＞

３．単元について
　本学級の児童は、各時代をつくってきた人物や出来事について調べまとめる学習を通して、社会科における資質能力を育んできている。また、友だちとの対話を通し「なぜ、江戸幕府は鎖国をしたのか」等の課題を解決する学習を積み重ねたことで、自分に置き換えて考える児童が少しずつ増えてきている。また、総合的な学習の時間では、日本と世界の国々とのつながりを深めていくことが、世界の平和を築くうえでは欠かせないという気付きを得た児童もいる。しかし、現代の国際社会における諸課題を自分の生活と関連付けて考えられている児童はまだ少なく、今後、日本と国際社会の関係づくりについて学ぶべき段階である。

　本単元『平和な世界を実現するための意見文を書こう！』は、我が国と経済や文化などの面でつながりの深い国の文化や習慣を尊重するとともに、人類共通の願いを達成するために国際社会において我が国が果たすべき役割について考え調べまとめ、意見文として表現する展開にしている。本単元を通して、多様性を受け入れ自身の広い観点で見る力が付くとともに、人類の願いである世界平和や生命尊重という普遍的な考え方を育むことができる。また、中学校への進学を前にして、一人ひとりが社会的な見方や考え方の裾野を広げる意見文を伝え聞き合うことで、児童自身の生き方について考える機会にもつながるだろう。

　指導に当たって、第一次では、「日本とつながりの深い国々」の小単元において、導入で絵本「せかいのひとびと（ピーター・スピアー作）」の読み聞かせをすることで日本以外の国々に関心をもてるようにする。また、我が国と関わりのある国の特色ある文化や生活について調べて発表することを通して、我が国の文化との相違点を知ることや、文化が生まれた背景を考え価値あるものを生み出し維持しようとする精神は、どの国も同じであることを学ばせたい。そして、国それぞれ個性があり奥深さがある一方で、我が国とは文化や生活の異なる点が多いことや互いに理解し合うことの大切さに気付かせたい。この「違いを認め合う」という視点を共有し、後に登場する「相互理解を基にした国際社会の平和維持」へつなげるようにする。
　第二次では、「世界の未来と日本の役割」の小単元において、（株）ファーストリテイリングの行う人道支援（ユニクロ製品を支援物品として輸送した事業）の話題から、世界的に発生している課題を乗り越えるための国際協力の現状とその対策について調べまとめていく活動に重点をおく。小単元内で登場するキーワード（国際連合、ユニセフ、青年海外協力隊、NGO、国際協力、紛争、難民、貧困など）を基に、平和な国際社会の実現のために大きな役割を果たしている具体的な活動事例を挙げて調べられるようにする。社会科用語の難しさから調べる段階でつまずく児童には、図書室などから事前に分かりやすく整理された書籍などを活用し、語彙の習得をスムースにできるようにする。
　本時は、前時までに学んだ国際協力について、実際の紛争事例をテーマに取り上げ、我が国の難民の受け入れ実態や予想される社会情勢について効果的な資料を基に、児童の考えを伝え合う活動をする。我が国の難民の受け入れ実態を知り、受け入れることの難しさを踏まえた上で、その中でも平和な世界の実現のために国際連合の一員として工夫して難民問題に取り組むことの大切さに気付かせたい。
　第三次では、「紛争」、「国際連合」、「持続可能な社会」、「国際協力」のキーワードを活用した意見文を書き発表し伝え合う活動を行う。意見文の中に平和の必要性、平和な国際社会の実現に向けて努力することの大切さ、今から自分にできる考えや行動について記述することで、公民的資質や能力を高めるとともに児童のこれからの人権感覚の向上につなげていきたい。

４．単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○日本人が課題解決のために国際連合や青年海外協力隊、NGO などの活動を通して積極的に世界の平和維持や発展に貢献していることを理解している。	○地球規模で発生している課題の解決策と我が国の国際協力の様子を関連付けて、国際社会において我が国が果たしている役割を踏まえ、学習したことを基に今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを、多角的に考えたり選択・判断したりして、表現している。	○学習したことを基に、今後、我が国が国際社会において果たすべき役割などを多角的に考えようとしている。

５．単元の計画（全 14 時間）

次	時	○学習活動 “予想される児童の気付き”	指導上の留意点	主な評価基準
導入	1	○海外のスポーツの試合の記事から、国際交流の良さを知る。 ○我が国と関わりのある国について興味をもち、他国の様子について調べる準備をする。	・多様な国が地球に存在している中で、それぞれが友好的に関わり合っている様子をおさえる。	・他国の様子について意欲的に調べようとする。 ＜主＞
第二次（1 日本とつながりの深い国々）		調べてみたい国について、まとめて発表しよう！		
	2 3 4 5	○教科書に記載の４つの国について、基本的な情報をおさえた上で、調べてまとめてみたい国を１つ選ぶ。 ○我が国と他国における文化や習慣の相違点や、その国が大切にしてきたこと・ものを中心に整理してまとめる。 “日本にはない文化や習慣がこんなにたくさんあるんだね。” “今まで聞いたことのないものが、他国では当たり前にあるのが不思議だ。”	・地球儀や地図帳を用いて調べることで、地理的内容を確実におさえ、気候や隣国とのつながりを理解できるようにする。 ・人々の想いや願いが国家安泰につながった経緯を理解するために、情報を文章や図、表にしてまとめるだけでなく、なぜその事象が起こったのかについて地理的・歴史的・公民的な背景から推測して自分なりの言葉でまとめる。	・必要な情報を整理して、図や表を用いて表すことができる。 ＜思・判・表＞
	6 7	○まとめたことを発表する。 ○自分や他者が調べて発表した内容について、ふり返る。 ○発表内容について自分の考えをまとめる。 “違うことは当たり前だし、それを受け入れる心をもつことが生きる上で大切だ。”	・発表の際、まとめたことを全体に分かりやすく伝えるために、ＩＣＴ機器を活用して発表させるようにする。	・多様な文化や文明の存在に気付き、良さとして受け入れることができる。　＜知・技＞ ・日本とつながりの深い国々は、いずれも様々な特色があるとともに、お互いに違いを認めることが大切であることを理解しようとしている。 ＜主＞

第二次（2　世界の未来と日本の役割）	8	○地球規模で起きている諸問題について知る。 “日本企業が日本を助けることだけでなく、他国を助けることも必要なんだね。” “そもそも、どうしてそのような状況になっているのかな。” “問題は一つだけでないはずだから、他に何があるのかを知りたい。”	・日本の企業が行う他国への支援についての新聞記事を読み、支援行為が「困っている人々を助けている」ことへと結び付けて考えられるようにする。 ・他国の人々へ支援する行動に焦点化して、「どんな人でも助け合い支え合う」ことの良さに気付かせる。	
		国際社会の課題を知り、解決に向けた取組を調べよう！		
	9 10 11	○国際連合、SDGs、国際協力について調べ、要点を整理してまとめる。		・国際社会の課題解決に向けた組織や働きについて理解することができる。　＜知・技＞
	12	○難民問題など、解決が難しい課題について自分の考えを伝え合う。（本時）	・支援制度が万全ではないという構造の問題点に着眼させるのではなく、全ての人が幸せに生きていくために自分や自分たちなら今何ができるのかという視点で議論を進める。	・自分を含め、我が国が国際社会において果たすべき役割を考えようとしている。 ＜主＞
第三次		これからの世界の平和のために、今の自分にできることを意見文にしよう！		
	13 14	○国際社会の課題解決に向けて、今の自分にできることを意見文として作成する。	・国際協力の観点を整理するために、これまで学習してきた内容をおさえつつ、自国と他国の違いを受け入れるとともに、共に安心して暮らしていくための友好的な関わりをもつことの大切さをふり返りながらまとめるように促す。	・国際社会の平和と発展のために果たさなければならない役割などを自分なりに考え表現している。 ＜思・判・表＞

６．本時の学習（12／14）

（１）目標

〇難民問題の実態を知り、国際協力に向けて自分たち一人ひとりができることを考える大切さに気付く。

（２）評価基準

A	B	C
難民問題では人の生き方や幸福が理由なく奪われていることに気付き、誰もが幸せに生きる権利を有することを当たり前とした社会にするための努力や工夫について自分なりに考え表すことができる。	世界全体で難民を支援することの大切さに気付き、誰もが幸せに生きていくための方法を考える必要性について理解することができる。	難民の存在を知り、難民の問題について理解することができる。

（２）展開

児童の活動（予想される児童の気付き）	〇指導上の留意点	備考
１．前時までの学習をふり返り、本時の学習の見通しをもつ。	〇前時までの学習をふり返ることのできる資料（ユニクロ、学研の記事）や、本時で新たに登場する難民の特集動画を見て、本時のめあてに向けて難民問題に関する実態と課題をつかむ。	＜全体＞ 板書 掲示物 動画
どうすれば、難民問題がなくなるのだろう。		
２．　課題について話し合う。 ・国同士の戦争が、戦争に関係のない一般市民を巻き込んで、結果その人々を難民にしてしまっている。その場に居れば、命がなくなるから逃げるしかない。 ・国のサポートだけでは十分に支援を受けられないから、大勢の人々が家も仕事もない状態が続いている。「その国で暮らす」という形よりも「一時的に避難している」という形が正しいかもしれない。	〇難民問題の根底には、国家間の政治問題や紛争の未解決事案及び受け入れ先の法的整備の不十分さなど、様々な課題が山積しているため、児童だけでの意見交換に加えて教師の補足も行う。 〇難民受け入れの支援策が現行の法律では十分ではなく、難民対象者が不法入国の対象となり強制帰国のケースに発展していることにも触れる。 〇課題についてイメージしにくい児童に対して、「受け入れる国の実態」、「土地の有無」、「避難先への移動費用がない」などの具体的な問題を投げかけて気付かせる。 「なぜ、課題がある中でも難民を受け入れる使命が日本にあるのだろう。」と問い、人道支援の根本には「違いを認め、幸福追求のために困っている人を助ける」精神が必要であることにせまりたい。	＜個人＞ ↓ ＜グループ＞ ↓ ＜全体＞
３．　難民受け入れの使命について話し合う。 ・幸せに生きていく権利はどの国の誰もが持っているものだから、困っている人がいたら少しでも支えてあげたい。 ・日本で既に働いている人と一緒に仕事をするのは、すぐには難しいと思う。どんなサポートが必要なのかを考えたい。	〇平和な世界の実現につなげるために、第一次でおさえた「違いを認め合う」視点をふり返り、誰もが幸せに生きていく権利をもつことの尊さを共通理解する。 〇法整備については今後の課題とし、困りごとに寄り添える人づくりが大切であることをおさえる。	写真 ＜個人＞ ↓ ＜全体＞
４．本時のふり返りをする。	〇「自分だったら何が出来るのか。」という視点を与え、次時からの平和な社会の実現に向けた意見文に向けて、ふり返りを記述させる。	